

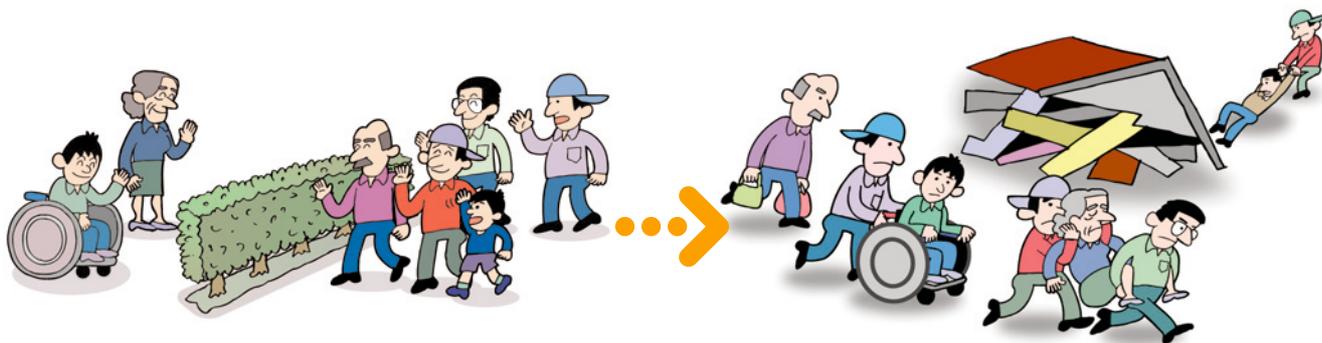
ふだんからの地域の つながりが大切です

私たちはお年寄りや障害のある方など*を支援するために何が
できるのでしょうか？

阪神・淡路大震災で、家の下敷きになった人々の多くを助け出したのは、家族や近所の人たちでした。
大規模災害時の救助や避難などには、ふだんの近所つきあいが力を発揮します。

また、お年寄りや障害のある方など災害に弱い方々の立場にたった心配りが大切になります。

※このような方を「災害時要援護者」ということもあります。



ふだんからお互いに声をかけあうと

いざというとき、助けあえる

町内会や自治会が中心となって開催される行事で、地域の防災に関する取り組みを知ることができます。また、参加型の防災訓練では、安否確認や救出・救護、炊き出しや避難訓練、避難所生活などを体験できます。



避難所生活を体験してみる



みんなで救護の手順を学ぶ



ご近所で炊き出しの訓練



みんなで歩いて避難訓練